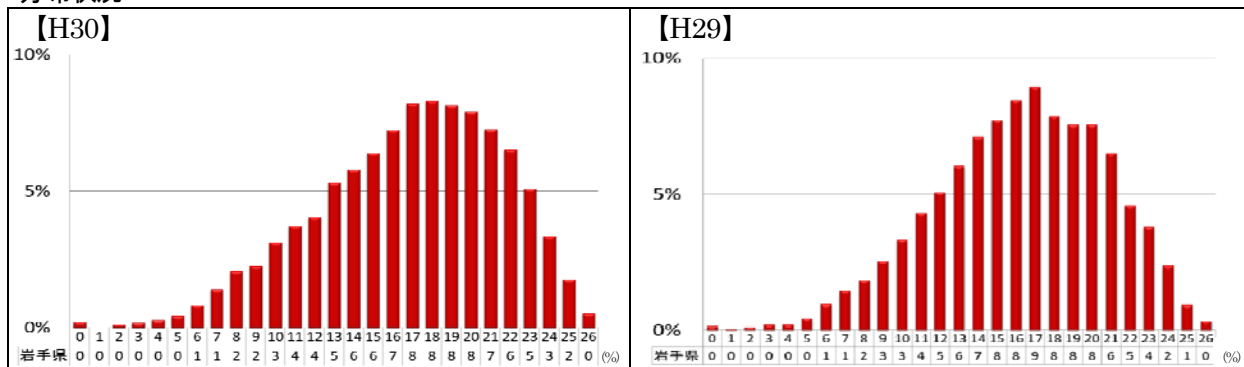


授業改善の手引 中学校第2学年国語

1 調査結果

(1) 分布状況



○ 問題数は昨年度と同じで、正答数の最頻値は18問、平均正答数は17問です。昨年度の分布と比較して山が若干右側に移動しています。また、正答数17～20問の中間層の割合は変わりませんが、21問以上の層が増えています。

(正答数の最頻値：該当する生徒数の最も多い正答数)

(2) 領域等の正答率

領域等	正答率 () はH29, < > はH28
話すこと・聞くこと (5問)	61% (58%) <74%
書くこと (2問)	62% (63%) <55%
読むこと (8問)	60% (55%) <57%
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項 (11問)	71% (70%) <81%
活用 (7問)	51% (50%) <56%

(3) 結果概要

- 小問ごとの正答率には差がありますが、全体として「話すこと・聞くこと」領域の正答率は61%と改善の傾向が見られます。しかし、「話の内容の大体を捉えて聞くことができる」の正答率は32%と指導の工夫が必要な状況です。
- 伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項の「敬語の働きについて理解し、正しい敬語に直すことができる」の正答率は43%と課題が継続しています。
- 「書くこと」領域の正答率は62%と昨年度とほぼ同様の結果でした。「資料の内容を読み取り、根拠を明確にして自分の考えを書くことができる」の正答率は56%であり、引き続き指導の工夫が必要な状況です。
- 「読むこと」領域の正答率は60%と昨年度から5ポイント上昇しました。「文章の表現の効果を捉えて読むことができる」「登場人物の行動から、心情を捉えることができる」の問題で改善が見られました。
- 活用を意識した問題においては、「読むこと」領域の「文章の展開を確かめながら要旨を捉えることができる」の正答率は28%であり、課題が継続しています。

(4) 経年比較問題の状況 (○改善, ◇改善傾向, ●課題が継続, ▲は前回調査との比較マウスを表す)

通し番号	正答率	比較	通し番号	正答率	比較
○4(話・聞)	88	10	●23(読)	28	▲8
○13(伝国)	58	6	●24(読)	43	▲2
○18(読)	78	18	●26(書)	56	▲4

○ 経年で課題が継続していましたが、通し番号18は改善が見られる状況です。

● 通し番号23は、正答率が30%前後と低い状況が続いており、指導の工夫が必要です。

(5) 小問別正答率

問題番号				調査問題のねらい	学習指導要領との関連	主な観点	備考	正答率	選択 No. (%)							
大問	中問	小問	通番号						1	2	3	4	5	6	0	
									選択	選択	選択	選択	誤答	正答	無解答	
1	(1)	ア	1	話の内容の大体をとらえて聞くことができる。	第2学年「話・聞」(1)エ	話・聞	活用		32					62	32	6
		イ	2	話の内容の大体をとらえて聞くことができる。	第2学年「話・聞」(1)エ	話・聞	活用		39					44	39	17
	(2)	3	話の内容の大体をとらえて聞くことができる。	第2学年「話・聞」(1)エ	話・聞			94	1	0	4	94				
	(3)	4	インタビューの仕方に気をつけて聞くことができる。	第2学年「話・聞」(1)エ	話・聞	経年		88	7	4	88	1				
	(4)	5	話の中心をとらえて聞くことができる。	第2学年「話・聞」(1)エ	話・聞			54					33	54	14	
2	(1)	①	6	漢字「鋭い」を正しく読むことができる。	第2学年「伝国」(1)ウ(ア)	伝国			96					3	96	1
		②	7	漢字「削減」を正しく読むことができる。	第2学年「伝国」(1)ウ(ア)	伝国			67					27	67	6
		③	8	漢字「収穫量」を正しく読むことができる。	第2学年「伝国」(1)ウ(ア)	伝国			97					2	97	1
	(2)	①	9	漢字「延びる」を送り仮名も含めて正しく書くことができる。	第2学年「伝国」(1)ウ(イ)	伝国			46					40	46	14
		②	10	漢字「経営」を正しく書くことができる。	第2学年「伝国」(1)ウ(イ)	伝国			57					23	57	20
		③	11	漢字「危険性」を正しく書くことができる。	第2学年「伝国」(1)ウ(イ)	伝国			74					19	74	7
3	(1)	12	漢字の部首について理解することができる。	第2学年「伝国」(1)ウ(ア)(イ)	伝国			87	6	3	87	3	1			1
	(2)	13	文節どうしの関係について理解することができる。	第2学年「伝国」(1)イ(ウ)	伝国	経年		58	2	58	7	31	1			1
	(3)	14	敬語の働きについて理解し、正しい敬語になおすことができる。	第5・6学年「伝国」(1)イ(ア)	伝国			43					44	43	13	
	(4)	15	熟語の組み立てについて理解することができる。	第5・6学年「伝国」(1)イ(エ)	伝国			71	71	8	11	9				1
	(5)	16	故事成語の意味について理解することができる。	第1学年「伝国」(1)イ(ウ)	伝国			83	6	83	5	5				1
4	(1)	17	登場人物の行動から、心情をとらえることができる。	第2学年「読」(1)イ	読			71	71	5	17	6				1
	(2)	18	文章の表現の効果をとりえて読むことができる。	第2学年「読」(1)ウ	読	経年		78	5	78	10	6				1
	(3)	A	19	登場人物の行動から、心情をとらえることができる。	第2学年「読」(1)イ	読	活用		60					26	60	14
		B	20	登場人物の行動から、心情をとらえることができる。	第2学年「読」(1)イ	読	活用		74	6	5	13	74	1		
5	(1)	21	文章の展開に即して内容をとりえることができる。	第2学年「読」(1)イ	読			68	7	8	16	68				1
	(2)	22	文章の展開に即して内容をとりえることができる。	第2学年「読」(1)イ	読			54	11	23	54	10				1
	(3)	23	文章の展開を確かめながら要旨をとらえることができる。	第2学年「読」(1)イ	読	経年活用		28					50	28	22	
	(4)	24	段落の役割をpushさながら、文章の構成や展開をとらえることができる。	第2学年「読」(1)ウ	読	経年		43	43	21	16	16	1			4
6		25	伝えたい事柄を明確にして適切な構成で書くことができる。	第2学年「書」(1)イ	書	活用		67					18	67	15	
		26	資料の内容を読み取り、根拠を明確にして自分の考えを書くことができる。	第2学年「書」(1)ア、ウ	書	経年活用		56					28	56	15	
全体正答率									65							

※整数値で表示のため、合計が100にならない場合があります。

2 指導のポイント

(1) 必要に応じて記録したり質問したりしながら、相手の話を聞くことを指導しましょう。

ア 問題の概要 【活用問題】

1	(1) 話の内容の大体を捉えて聞くことができる。 第2学年「話すこと・聞くこと」(1)エ	正答率	ア 32%	イ 39%
---	---	-----	-------	-------

イ 誤答分析

- (ア) アの無解答率は6%、イの無解答率は17%でした。誤答を分析すると、アについては、添乗員の林さんが語った仕事をする上での目標を正しく聞き取ることができず、「お客様を安全に導く」という点について、答えるべき3つの内容のうち「お客様」と「安全に導く」のいずれかのみ記述している不十分な解答が多く見られました。また、イについては、「お年寄りが休める場所を準備する」という解答が多く見られました。これは、旅行の参加者に不自由がないようにするための事前の準備として述べたことの詳細例として付加的に示した内容を解答したものと考えられます。
- (イ) この問題では、聞き手の質問に答える話し手の応答について、話の中心的な部分と付加的な部分を聞き分ける力が求められています。話の内容の大体を捉えながら、要点について正確に聞き取り、必要に応じて大事な事柄のメモを取ることが不十分だったと考えられます。

ウ 指導上の留意点

- (ア) 何のためにどのような状況で話を聞くのか聞き手に意識を持たせた上で、話の中心的な部分と付加的な部分を聞き分け、話の要点はどのようなことであり、それはどのような事実に基づいているのかを捉え、話全体がどのようにまとめられているのかを考える学習をする必要があります。併せて、聞き取った話の内容について確かめさせたり、振り返らせたりする指導が必要です。
- (イ) 必要な内容を記録する際には、重要であると判断した情報をキーワードとして書き留めたり、気付いたことを書き加えたりするなど、効果的な記録の取り方ができるようにすることが重要です。
- 【展開例1 参照】

(2) 敬語のもつ働き・基本となる尊敬語、謙譲語、丁寧語について理解させる学習活動を行いましょう。

ア 問題の概要 【記述問題】

3	(3) 敬語の働きについて理解し、正しい敬語に直すことができる。 第2学年「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」イ(ア)	正答率	43%
---	--	-----	-----

イ 誤答分析

- (ア) 無解答率は13%でした。誤答を分析すると、間違いである「(先生が)申し上げた」ではなく、「こぼれたのです」を指摘する誤答が多く見られました。また、「申し上げた」を指摘したものの、正解である「おっしゃった」という尊敬語を書くことができない例が見受けられました。
- (イ) この問題では、相手と自分との関係や場面に応じて用いる尊敬語や謙譲語のもつ固有の表現についての理解が求められます。普段用いている動詞を尊敬語や謙譲語でそれぞれどのように表現するのかということについての理解が不十分であることが考えられます。

ウ 指導上の留意点

- (ア) 日常生活で見聞きしている敬語の個別的・体験的な知識について、自分と相手との関係を考えながら尊敬語、謙譲語、丁寧語に整理して体系付けるとともに、人間関係の形成や維持における敬語のもつ働きを十分に理解させる必要があります。
- (イ) 尊敬語と謙譲語を学習する際に、接頭語・接尾語をつける表現とともに、特別な動詞を使う表現についても整理して指導することが必要です。誤りがちな表現については、具体的な実生活の場面を想起させるなどして、適切な使い分けができるようにさせることが大切です。

(3) 登場人物の見方や人物像から相互関係を捉え、内容の理解に役立てる学習活動を充実させましょう。

ア 問題の概要 【活用問題】

4 (3) A 登場人物の行動から、心情を捉えることができる。

第2学年「読」(1) イ 正答率 60%

イ 誤答分析

- (ア) 無解答率は14%でした。誤答を分析すると、「学」と「憲太」が言い合いをしているという場面の状況を捉えることにとどまり、2人の会話部分等を根拠にして、「学」は「上手くいかないことを周りのせいにしてている」と「憲太」が考えていることを捉えるまでには至らなかった解答が多く見られました。
- (イ) この問題では、まず、「憲太」が「学」のどんなところに腹を立てていたのかを捉え、次に、それが「憲太」の「学」に対する思いであることが分かるように表現することが求められます。

ウ 指導上の留意点 【関連問題 小5-4 (5)】

- (ア) 第1学年では、言葉を手掛かりにしながら文脈をたどり、登場人物の心情や行動、情景描写などに注意して読むことによって深い理解や感動が得られることを学習しています。これを受け、「登場人物の言動の意味」について登場人物の人物像や相互関係を踏まえた上で、その言葉や行動が、話の展開や作品全体に表れたもの見方などにどのようにかかわっているかを考えることが重要です。
- (イ) 会話文等の描写を根拠にしながら登場人物の思いを捉えてお互いの関係を見出し、改めてお互いの心情等を想像して読むことが必要です。

(4) 文章全体と部分との関係に着目して要旨を捉え、文章の構成や展開について自分の考えをもつ学習活動を行いましょう。

ア 問題の概要 【経年比較・活用問題】

5 (3) 文章の展開を確かめながら要旨を捉える。

第2学年「読」(1) イ 正答率 28%

イ 誤答分析

- (ア) 無解答率は22%でした。誤答を分析すると、「比較」、「推理」という言葉を使い、「情報を比較する」、「情報の背景や意図を推理する」という内容は書いているものの、「自分の意見を練り上げる」という内容が含まれていないものが多く見られました。また、「比較」、「推理」という言葉を使ってどのような内容を捉え、まとめればよいのかにたどり着かなかった解答も多く見られました。
- (イ) この問題では、世の中にあふれる情報に簡単に流されてしまわないように、筆者が解決策とそれに関わる留意点を提示した上で、情報を活用していくためには具体的にどのような作業が必要であると述べているかを正確に捉えることが求められます。2段落で情報リテラシーを鍛えるという解決策が、5段落で確証バイアスの罠に陥らないという留意点が提示され、8段落では情報の活用について述べられています。解答の条件である「比較」、「推理」という言葉を手がかりにしながら読み、ここで求められているのは情報の活用についての内容であることを捉えることが必要です。

ウ 指導上の留意点

- (ア) 第1学年では、段落ごとに内容を捉えたり、段落相互の関係を正しく押さえたりしながら、さらに大きな意味のまとまりごとに、文章全体における役割を捉えることを学習しています。これを受け、各段落が文章全体の中で果たす役割について捉え、叙述の順序が書き手の考えにもたらす説得力や、文章中に示されている具体例が書き手の論の展開の中で果たしている役割を考えることが重要です。
- (イ) このことを指導する際には、文章の説得力や論の展開について自分の考えをまとめる言語活動が考えられます。その際には、自分の考えの根拠となる段落や部分などを挙げるのが大切です。問題提起の段落や事例を挙げる段落、分析している段落や結論を述べている段落など、それぞれの段落の果たす役割をふまえ、必要に応じて情報を取り出し、内容をまとめることが有効です。

【展開例2 参照】

【展開例1】

【自分の考えと比較しながら聞くことで、相手の話の内容を注意深く聞き取り、自分の考え方を深めたり、広げたりする言語活動を位置付けた展開例】

学習材「学校の図書館の蔵書について討論しよう」

1 学校の図書館の蔵書を学習材として取り上げ課題を設定する。



「学校の図書館に漫画は必要か」というテーマについて、互いの意見を比較しながら聞くことで、話の要点を正確に捉え、自分の考えの形成に役立てられる力を付けていきましょう。

2 自分の意見を、短い文章にまとめる（立場や根拠を明確にする）。

〈それぞれの立場の意見の例〉

〈賛成派 A さん〉 図書館に漫画は必要だと思う。なぜなら、休み時間の図書館利用者が少ないからだ。みんなが興味のある漫画を置けば来館者が増え、読書のきっかけづくりにつながると思う。

〈反対派 B さん〉 図書館に漫画は必要ないと思う。理由は、授業で調べ物をするときに活用できる本が不足しているからだ。漫画ではなく、そういう本をもっと充実させるべきだと思う。

3 「図書館に漫画は必要」と考えるAさんが、先に自分の意見を話す。

☆ 考えがわかりやすく伝わるように、聞き手に応じた語句を選択するなど表現を工夫して話すようにさせましょう。

4 聞き手は、相手の話を聞きながら、主張の要点と根拠として示された具体的な事実等をメモする。

☆ 相手の話の内容を正しく捉えているかを確認する場を位置付けましょう。

☆ 重要であると判断した情報をキーワードとして書き留めるようにさせます。

5 聞き手は、話し手の話を聞き終えたら、まず主張の要点を相手に確かめ、その上で自分が納得できないこと、疑問に思ったことを考え、メモをもとに伝える。

6 それらについて話し手が、再度、自分の考えを詳しく伝える。

〈聞き手〉 「休み時間の図書館の利用者が少ない。漫画を置けば来館者が増える」ということでしたが、先月の昼休みの図書館の利用者数は何人くらいだったのですか？



〈話し手〉 先月の図書館の利用者ですね。たしか、図書館だよりで1年生は10人、2年生は7人、3年生は2人と紹介されていました。



7 聞き手は、さらに納得できないことを尋ねる。



〈聞き手〉 漫画を置くことで来館者が増えたとして、それが本当に読書のきっかけづくりにつながるのでしょうか？

8 聞き手と話し手を交替して、同じことを繰り返す。

9 自分の考えと比較して相手の話を聞くことをとおして、考えが深められた点をお互いに話す。



〈聞き手 B さん〉

「市立図書館で、漫画を置いたことで利用者が増え、さらに漫画以外の本の貸し出し冊数が増えた例がある」という A さんの話に驚きました。読書のきっかけづくりにつながるのならば、漫画を置くことがあってもいいのかなと思うようになりました。自分の考えと比較しながら聞くことで、相手の話の要点を注意深く聞き、自分の考えを深めることができました。

【展開例2】

【説明文を読み、文章の構成や展開について自分の考えを述べる言語活動を位置付けた展開例】

学習材 加賀 乙彦「不幸な国の幸福論」より

(平成30年度岩手県中学校学習定着度状況調査 中学校第2学年国語⁵)

学習課題

「不幸な国の幸福論」に説得力をもたせている構成と展開の仕方について、自分の考えをまとめよう。

1 筆者の主張が書かれている段落を見つける。【個人】⇒ ⑨⑩ *①～⑩は段落番号

☆ 文章の構成と展開の仕方に目を向けさせるために、最初に筆者の主張をおさえることが必要です。



この主張につなげるために、筆者の加賀さんがどのように述べているのかを考えていきましょう。

2 内容を捉え、段落のまとめごとに分ける。【個人】⇒ ①/②③④/⑤⑥⑦/⑧/⑨⑩

☆ まとまりに分けた根拠を考えさせましょう。



何について述べられているまとめ目ですか？

情報リテラシーについて述べられているので、②③④はひとまとめだと思いま



①は問題を提起しているのではないかな…

3 ⑧段落の役割について考える。【個人】

☆ 段落の役割を考える上で、要点をまとめることが重要です。1文目から「考える」という重要語句に注目させ、まとめさせるようにしましょう。



まとめりに分けにくかった段落はありませんでしたか？

【要点】多様な情報を比較検討したり、情報の背景や意図を推理したりした上で、自分なりの意見を練り上げていくことが「考える」ことである。*波線部が⁵(3)の解答に当たります。

段落の役割は、まとめた要点をもとに文章の構成と展開から考えればよさそうですね。

☆ ⑧段落の役割を考えることが学習課題の解決に大きく関わるため、文章の構成から各段落のつながりを具体的に考えさせましょう。連続性のある学習活動の流れを大切にグループ活動へつなげましょう。

4 説得力をもたせている構成と展開の仕方について話し合い、確認する。【グループ】

☆ それぞれのまとめが文章全体の中でどのような役割を果たしているのかを根拠として話し合うことが大切です。



• それぞれのまとめの役割は？
• 全体の流れから考えてみましょう。
• 主張に納得できますか？(なぜ?)

最初に①で問題を提起して、②③④ですぐに解決策を述べているよ。



その後、⑤⑥⑦で解決策の注意点を述べているね。この順序が分かりやすいと思う。

⑧段落があることで、結局私たちはどうすればよいのか具体的によく分かるようになっているね。



そうだね。⑧の説明があるから⑨⑩の幸せの主張につながっていて、納得できるよね。

5 説得力をもたせるための構成と展開の仕方について自分の考えをまとめる。【個人】

「不幸な国の幸福論」では、幸福についての筆者の主張に説得力をもたせるために、まず問題が提起され、次に解決策とその留意点が述べられている。さらに私たちはどうすればよいのかを具体的に説明した上で主張につなげている。このように段落ごとのまとめりに役割をもたせ、述べる順序もよく考えられているため、私たちにとって分かりやすく、納得できる文章になっている。